

ゼオンケミカルズ米沢

会社紹介

【事業内容】

香料・医薬品中間体の製造販売、RIM 配合液の製造・販売

1996 年設立。ファインケミカル製品の生産会社としてスタートし、1997 年には合成香料、1998 年には RIM 配合液の生産を開始しました。

【人員数】

2020 年 3 月末人員数：35 名（男性 33 名、女性 2 名）

2019 年度採用実績：2 名（男性 2 名、女性 0 名）



ゼオンケミカルズ米沢

製品イメージ



合成香料を使用した香水

RIM 配合液を使用した成形品

会社方針（トップメッセージ）

当社はゼオングループ唯一の北日本の生産拠点です。2020 年度は SZ-20 Phase III 最終年であること、また、安全が生産活動で最も重要であることから、「安全は全てに優先する」で行動し、Phase III 最終年の目標を完遂する。を 2020 年度方針として掲げ、以下の重点課題を設定しています。

1. 無事故・無災害達成。その為の施策を実行する
2. 業務内容を変革し、生産効率の向上を目指す
3. 顧客要望の応える品質を追求する
4. コストダウン活動を継続的に推進する
5. 研究受託業務を完遂し、工場技術機能を向上させる
6. 社会の期待に応える活動を推進する



宮城 孝一 社長

安全への取り組み

【方針】

基本にこだわり安定・安全で快適な職場づくりを推進する

【具体的な取り組み】

体感教育による感性 UP

・製造に用いるアルキルアルミ（危険物第 3 類）の燃焼・爆発体験を、消防署および薬品メーカーの協力により実施しています。



体感教育

4R-KYTによる危険予知力のUP

・当社では、4R-KYT[※]を導入し事故・労災の未然防止活動を行っています。この活動は、職場や作業のなかに潜む危険要因とそれが引き起こす現象を、小集団で分析し、相互に理解することで自らの危険な行動を防止することを目的に実施しています。

※4R-KYT（KYT基礎4ラウンド法）は、4つの段階（ラウンド）を経て進めていく危険予知訓練方法の1つで、チームにてイラストシートや現場の写真を使って、職場や作業に潜む危険を抽出し、繰り返し訓練する事により一人ひとりの感受性、集中力、問題解決能力などを高める活動。



環境負荷削減の取り組み

【方針】

ゼロエミッションを継続し、環境負荷低減活動を推進する

【具体的な取り組み】

1. ゼロエミッションの継続

- ・資源の再生利用
- ・サーマルリサイクルの実施

2. 省資源・省エネ活動の推進

- ・電力削減

3. 環境関連データ（「0」は0.5未満、「0.0」は0.05未満を示す）

ゼオンケミカルズ米沢（株）		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
PRTR法対象物質	対象物質数	3	4	5	5	6
	使用量（トン）	1,567	1,576	4,544	3,880	2,787
	排出量（トン）	0.6	0.6	1.5	1.4	1.0
産業廃棄物	減容前発生量（トン）	182	180	232	215	284
	埋立処分量（トン）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水資源（工業用水+地下水+上水道）使用量（千m ³ ）		12	14	18	16	14
CO ₂ 排出量（トン）		1,815	1,716	2,089	1,927	1,804
エネルギー使用量（原油換算、kL）		762	720	876	864	792
消費電力量（千kWh）		2,050	1,820	2,001	1,800	1,758

※新規実験の運転本格化による電力使用量の増加に伴い、2015年度はCO₂排出量、エネルギー使用量ともに増加しています。

※生産量の増加に伴い、2017年度以降CO₂排出量、エネルギー使用量ともに増加しています。

社員とともに

【方針】

高い目標へ挑戦する人材が育成され、改善・改革活動が日常的に実施されている。

【具体的な取り組み】

1. ZΣサークル活動活性化

QCサークルのことをゼオングループではZΣサークルと呼んでいます。社内での発表会を毎年開催し、代表サークルをゼオングループ全体の発表会に派遣することで、社員の改善に対する意識づけとスキルアップを図っています。

2. 社内表彰制度「なせば成る賞」

「なせば成る賞」は、改善・仕組みづくり、安全・5S、風土改革などで成果をあげた人を対象とした表彰制度です。2017 年度は 7 名、2018 年度は 6 名、2019 年度は 5 名が受賞しました。「なせば成る賞」は江戸時代中期に米沢藩主として改革に取り組んだ上杉鷹山公の名言「なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人の なさぬなりけり」にあやかりました。

地域との共生

社会の期待に応える活動、コンプライアンス活動を推進

【具体的な取り組み】

1. 地域のイベントへの参加

山形県実験教室への参加

「2019 青少年のための科学の祭典 in 山形」に実験工作ブースを出展しました。子ども達と一緒に、色水を含んだ吸水性樹脂に自社製品の合成香料を加えて芳香剤を作りました。小学生から中学生までの 98 名の子ども達に、楽しみながら合成香料について学んでもらいました。



実験教室

2. 上杉雪灯籠まつりへの参加

上杉雪灯籠まつりは、市民参加による平和への願いを目的の一つとして毎年行われています。当社では地域との共生活動の一環として毎年参加し、雪灯籠を作製しています。



完成した雪灯籠